# Salesian Bulletin Japan
ドン・ボスコの風

# Avanti
アヴァンティ

no.5
2026.2

特別座談会

## 今までもそしてこれからも
### ～現代の若者たちと歩み続ける未来～

2026年1月6日　サレジオ会日本管区管区長館にて

2026年1月6日（火）16:00～、四谷にあるサレジオ会日本管区の管区長館で、5人の青年と現管区長である濵﨑神父による座談会が行われました。サレジオ会来日100周年記念の年を迎えるにあたり、現代を生きる青年たちにこれまでのサレジオ会の活動のことを分かち合い、未来について一緒に考える良い機会となりました。その場所に集まった青年達は日本生まれの外国人、海外からの移住者、サレジオ会の学校出身者、サレジオ会の司牧する教会で信仰に出会った人など様々な背景があります。彼らとの話の中で見えてくるサレジオ会日本管区の今までとこれからはどういう姿なのでしょうか。（中面へ続く→）

（聞き手・編集：ドン・ボスコ社中村、岡本）

### 座談会参加者　写真左から

**有田 よし乃**　Arita Yoshino
生まれは宮崎県都城、日向学院中学校高等学校卒。当時校長だった濵﨑神父や中田神父に出会う。上智大学総合人間学部教育学科在籍。SYM事務局員。

**福井 美夏汀**　Fukui Minami
東京生まれ育ち、聖心女子学院初等科、中等科、高等科、聖心女子大学卒。カトリック碑文谷教会所属。小学生の時に碑文谷教会の日曜学校に通い、中高生会や日曜学校リーダーなどを通して様々なサレジオ会員と出会う。

**濵﨑 敦（管区長）**　Hamasaki Atsushi
生まれは長崎県、育ちは奈良県。サレジオ会員・神父として四日市ジュニア志賀院や日向学院中学高校、小さき花の幼稚園などで奉職。2024年6月から現職。

**グエン・ティン・ガー**　Nguyễn Thị Nga
ベトナム出身、日本在住。山梨と東京で各3年、介護士として勤務。SNSを通じてカトリック調布教会とドン・ボスコ オラトリオに出会う。

**内田 ジョアオ**　Utida João Pedro
日系ブラジル人四世。埼玉県本庄市で生まれ育つ。現在上智大学ポルトガル語学科在籍。カトリック本庄教会で山野内アンヘル神父と出会う。

**菊地 健太朗**　Kikuchi Kentaro
東京生まれ、カトリック瀬田教会所属。上智大学文学部新聞学科在籍。サレジオ学院中学校高等学校にて谷神父、鳥越神父、榎本神父と出会う。

100th Anniversary of Salesian presence in Japan
サレジオ会来日100周年
記念期間：2025年2月8日～2026年10月4日

---

## お知らせ

### サレジオ会来日100周年記念 祝祭期間の延長について

前号でもお知らせいたしましたが、サレジオ会来日100周年の祝祭期間を、総長来日に合わせて、今年の10月4日まで延長いたします。10月4日には総長とともにクロージング・イベントを開き、祝祭期間に頂いた恵みを神に感謝するとともに、これからの日本での活動が、ますますドン・ボスコの望んだ若者のためのものとなるよう、誓いを新たにいたします。どうぞ引き続き、ご注目ください！

### EAO地域顧問 ウィリアム・マシューズ師来日

サレジオ会来日100周年記念ミサのゲストとして、EAO（東アジア・オセアニア）地域顧問のウィリアム・マシューズ神父が来日します。

ミャンマー生まれ。1994年に家族でオーストラリアに移住し、1995年よりメルボルンでサレジオ会に入会。2005年、司祭叙階後、オーストラリアの各学校で教員、チャプレンとして司牧に当たる。オーストラリア管区の管区長を務めた後、2025年に地域顧問に選出。

「日本の若者の皆さん、そしてサレジオ家族の皆様、サレジオ会来日100周年、誠におめでとうございます。サレジオ会がこの100年の間、日本の若者の教育と養成に献身してこられたことに、心から敬意を表します。聖ヨハネ・ボスコの若者への愛と神への信頼の精神が、これからも皆様を導き、希望を与え続けますように。神の豊かな祝福が皆様の上にあり、主イエス・キリストにおいて幸せで実り豊かな歩みが続きますようお祈りいたします。

ウィリアム・マシューズ神父」

### サレジアニ・コオペラトーリ創立150周年

今年2026年は、サレジオ家族の一員であるサレジアニ・コオペラトーリにとって、創立150周年のお祝いの年でもあります。ドン・ボスコは修道者だけでなく、共に働く信徒の協力者も「精神を同じくする家族の一員であるべき」と考え、この会を設立しました。今年の5月には世界大会が予定されていて、総長とともに、コオペラトーリ（協力者）のさらなる躍進について語り合います。日本でも教会や日曜学校、オラトリオ、学校など各分野で情熱を持って活躍しているコオペラトーリのこれからに注目です！

### ストレンナ2026

総長から示された今年のストレンナは、「すすんで仕える者になろう～この人の言うことを何でもしなさい～」です。

「カナの婚礼」で、マリアの言葉に従った召使いたちがイエスを信頼したとき、そこに奇跡が起こりました。この出来事を思い起こしながら、私たちもまた、日々の生活の中で起こる小さな奇跡に心を開き、その実現に協力していこうと呼びかけられています。

この一年、ストレンナの言葉を心に留め、歩んでいきましょう。

**サレジオ会来日100周年に関する情報はこちら**

100周年記念アーカイブサイト
http://www.oratorio.tokyo/

ドン・ボスコの風インスタグラム
https://www.instagram.com/dbnokaze/

ドン・ボスコの風 アヴァンティ no.5　2026年2月8日発行

編集人　岡本 大二郎
発行人　濵﨑 敦
発行所　サレジオ会日本管区本部
「ドン・ボスコの風」編集事務局
〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12
電話：03-3351-7041　Fax：03-3341-5429
Eメール：dbw@salesians.jp
編集・デザイン制作　ドン・ボスコ社
印刷所　株式会社プリントパック

本誌掲載の記事、写真、イラストの無断転載を禁じます。
© サレジオ会日本管区本部 2026

**「ドン・ボスコの風」について ――**

「ドン・ボスコの風」はサレジオ会創立者ドン・ボスコが1877年に創刊した"Bollettino Salesiano"の日本版。サレジオに関わる人びとの生き方や活動を紹介し、サレジオ家族の絆を深めるサレジオ会広報誌です。

**note版「ドン・ボスコの風」** https://note.com/db_no_kaze

サレジオ会日本管区が管理人を務めるサレジオ家族のウェブ版オラトリオ（学び舎）です。若者と、共に歩むすべての人が、学び・つながる場として、皆さんで一緒に作っていく発信スペースです。サレジオ家族の様々な人や場所、事柄を随時紹介しています。

有田さん

宮崎日向学院の学校生活の中で、キリスト教やサレジオ会の理念に触れる機会が数多くあり、その家族的な温かさを実感し、そのつながりを求めて上智大学に進学しました。

福井さん

サレジオとの出会いには導きがあって、ミッションスクールの友人に誘われて通い始めたのがカトリック碑文谷教会。サレジオで受けた影響から大学生の時に洗礼を受けました。

# 日本の若者から見た現代社会について

現代社会に生きる皆さんの見聞きしていること、感じていること、考え、思っていること（政治、環境、希望や不安など）をお聞かせください。

**菊地●**現在の人口減少とそれに伴ったコミュニティの希薄化は寂しいことだと思っています。私はカトリックのつながり、特にサレジオ関連の人たちに支えられました。その反面、つながりに恵まれず苦しんでいる人もいる。つながりを作るのに教会や学校を起点としたコミュニティ機能が役に立つと思います。サレジオ会（サレジオ家族）では各教育機関を巣立った人が集うネットワークが機能していて、利用できる施設も沢山ある。その輪につながることで孤立無縁になりにくいのは心強いことだと思います。

**ガー●**私は神様が守ってくださると信じているので毎日喜びがありますが、いつも職場利用者から「亡くなったら、どこに行くのか」と不安な気持ちいっぱいで質問されます。時々「神様を信じますか」と聞いてみると、「信じないけど、お祈りしてる」と言われます。私は職場のクリスマス・イベントで歌と踊りを披露したいと思い、ドン・ボスコ・オラトリオの若者たちに一緒に来てほしいとお願いしました。始まるまで同僚も利用者も不安そうで、私も心配でした。でも、笑顔で歌い踊る若者を見て、同僚や利用者が笑顔で拍手し始め、やがて一緒に踊ってくれて、サレジオのおかげで神様のことを伝えられたと思います。

**内田●**最近、日本の文化を理解しない観光客の行動や態度を気に入らない日本人が大勢いると感じますが、日本の社会に溶け込んでいる外国人も沢山います。今の政治の排他的な動向は少し怖いです。僕や家族はブラジル国籍で永住ビザを持っているのですが、小学2年生になる弟だけ申請してはいますが、まだ出ていないので不安です。日本の社会において外国人の存在もとても重要だと認識することは大切なことだと思います。カトリック本庄教会では多様な国籍の方と接するので、無意識のうちに多国籍な社会が目に見えるのですが、そう思わない人たちの主張が印象的に響いてしまっている気がします。

**福井●**私がリーダーをしているカトリック碑文谷教会の中高生会のように「否定しない」「そのまま受け止めてもらえる」「安心感を体感してもらえる」場所が大事だと思っています。以前参加したスキー合宿でそれぞれの名前を書いたくじを引いて、当った人を2日間見守って、その人のいいところを2日目の夜に全員の前でお互いに発表し合うということをしました。みんな少し照れくさそうでしたが、言われた方も嬉しいし、楽しそうにやっていました。その感想で話していたのが「自分のよいところ、素敵なところを伝えてもらうと、ここにいていいって言われているような感じがする」ということ。それを伝え合う場を続けてほしいです。そのための枠作りは大人がする必要があると思うし、自分が歳を重ねても若者たちが活動できるようサポートしたいと望んでいます。

**有田●**私は今、大学4年生ですが、SNSを沢山見ていると、私の普段の生活圏内では知り得ないような現実や、かけられることのない心のない言葉だったりを目にすることがあって、社会に出るとそういうことに触れる機会も多くなるのだろうかという心配もあります。私はサレジオとのつながりを続けたいと思って上智大学に入学したのですが、1年生の時は忙しくて、気付いたら学校のこととスマートフォンを見るだけで1日が終わってしまい、心にぽっかり穴が開いたような時もありました。2年生からサレジオの活動に参加できるようになって、サレジオ的な温かさというか、人と人との関わりとかに触れて、ネットの世界からちょっと連れ出してくれるような場っていうのは、これからの社会にとっては大事だと思いました。

● ● ●

ここから濵﨑神父が皆の話の中から重要なキーワードを示しました。「コミュニティの希薄化」「精神の拠り所」「外国人に対する排外主義」「子どもの居場所」「デジタルの世界」。どれも今の日本の社会の問題、課題を表わしています。

そこで菊地さんはご自身が大学で学ばれているジャーナリズムやメディアの観点から昨今のリベラル主義の急伸の反動で価値観の分断が先鋭化した、その一つが排外主義だという新聞の社説を紹介しました。

● ● ●

**菊地●**何か解決を考えて社会に訴えてもその溝が深まっていくだけなら、どうしたらいいのかと。

**内田●**確かにそう思います。2015年当時、そのお互いの価値観の尊重を重視しすぎた結果、その先の共存まで考えることができてなかったのかなと思いました。でも、答えは出ないのですが。

**菊地●**「それぞれを大事にしましょう」だけでは共存に至る道にはならないと思います。

**濵﨑●**山野内アンヘル神父は「交わり」って言いますね。「共存」も大事かもしれないけど「交わる」ことが大事なんだと。日本人でも外国人でも、健常者でも障害を持つ方であっても。

**有田●**私はSYMの活動で2か月に1回、カトリック浜松教会に行って「エスペランサ」という炊き出し活動をお手伝いしているのですが、従事している方の殆どが日系ブラジル人の方々なんです。持ち前の明るさでそこに来ているホームレスの方を明るく支援している姿は、すごくいい交わり方だって思ったんです。

**→記事の全文は、note版「ドン・ボスコの風」へ。下記QRコードよりアクセスできます。**

**note版　座談会ロングバージョン**
**https://note.com/db_no_kaze/n/ne1761e09cf1b**

菊地さん

サレジオ学院で榎本神父に出会い、大きな飴玉をもらいながら言われた言葉が印象的でした。後に「この学校にくる人は皆マリア様に呼ばれてくる」という鳥越神父の言葉で腑に落ちました。

内田さん

自分が通っていたカトリック本庄教会に山野内アンヘル神父が赴任した時、受験生でしたが、アンヘル神父に大学進学の相談まで親身に聞いてもらったのが印象的でした。

ガーさん

教会やそのコミュニティは安心できる場所です。東京でも教会を探していたある日、SNSで調布のドン・ボスコ オラトリオを教えてもらい、今では毎月第1、第4日曜日に通っています。